

2018年が皆様にとって平穏な年になりますように

昨年、国家リーダー達の言動に冷や冷やし、振り回され、心から世界の平和と安定を願う一年でした。増え続ける世界の難民の数は過去最高を記録し、テロ行為は繰り返され、とどまることを知りません。また、そこに追い打ちをかけるように国内外を自然災害が襲い、多くの人々が被災しました。一体、世界はどうなってしまうのでしょうか？考え出すと、とても悲観的になってしまいそうですが、だからこそ、平和の貴重さを噛みしめることができます。先の見えない不安な時代の中にあっても、本質を見失うことなく、CWS Japanはこれからの1年も社会に貢献し続けていきます。

防災ダボス会議でマルチセクター協働を促進するためのMIRAIコンセプトを発表

11月27日、World Bosai Forum (防災ダボス会議)が仙台国際会議場で開催され、CWS Japanが共同事務局を務める防災・減災日本CSOネットワーク (JCC-DRR) もMIRAI(Multi-sectoral Initiative for Research, Action, and Impact)と題したセッションを主催しました。本セッションの背景には、昨今の気候変動の影響による災害リスクの増加があります。また、そこから連鎖する社会的・環境的・政治的リスクを鑑みると、世界の現状は待たなしであると言えます。2016年に開催された世界人道サミットでも、現在「戦後最悪の人道危機」と称されておりました。その理由として、災害に起因する食糧不足も多分に影響しており、戦後最大の人口移動も起きており、世界のメカニズムは明らかに変わってきています。

そんな状況下において、「効果的な災害リスク削減方法とは何か？」とCWS Japan、JCC-DRRは模索してきましたが、災害対応だけでなく、根本原因を根治する、今まで解決出来なかった問題を解決するという事につきて考えています。では、それをどう行うかが一番の問題ですが、我々の社会の中には、現場に立つNGOがいて、

世界トップレベルの科学者もいます。また、イノベーションで社会を牽引してきた企業もいます。しかし、それらの異なる強みがシナジーを起こす、横串を刺す仕組みはあまり存在しておらず、そのプロデュース力が一番今求められているのだと痛感します。その、多岐に渡るステークホルダーが国際的に協働できる場が必要で、それにMIRAIという名を付け、これからMIRAIイニシアチブを展開していきたいと考えています。

防災ダボス会議のセッションでは、慶応大学SFC、水災害・リスクマネジメント国際センター、京都大学防災研、Yahoo Japan、ADRRNイノベーションハブ、及びJCC-DRRが登壇し、マルチセクターで取り組む問題解決を後押しする仕組みの必要性を訴えました。今後第一回MIRAIフォーラム開催を含め、アクションを起こしていきたいと考えています。(文：事務局長 小美野 剛)



アジア減災・災害対応ネットワーク (ADRRN) 総会開催

2017年12月12日～14日に向け、CWS Japanも理事兼事務局長を務めるアジア減災・災害対応ネットワーク(ADRRN)の総会がバンコクで開催されました。参加者はADRRNメンバーだけでなく、国連機関・政府系ドナー・大学・企業・その他ネットワークからのパートナー団体も集まり、約100名が参加する大きな会議になりました。今回のテーマは“Localization through Innovation for Building Resilient Asia”2016年には世界の被災者数が5億人を超えるなど、特に増加する気象災害リスクに対してどう向きあうか、未解決問題を解決するイノベーションは何か、また更なる効果的な緊急・復興支援とは等、多岐に渡って議論しました。



ADRRN
ADRRN Partnership Event 2017
Localization through Innovation for
Building Resilient Asia
December 12, 13, 14
Hotel Windsor Suites Bangkok
<http://www.windsorsuiteshotel.com/>

Registration URL:
<https://goo.gl/forms/M3sWxDuethoPqbb01>

Considering the hydro-meteorological risks Asia faces, and the vision of ADRRN, the key theme for this year's RIF-Asia is set to be "Paving the Way for Transformative Risk Reduction and Early Action against Hydro-Meteorological Disasters in Asia", and key focus lens applied from Localization and Humanitarian Innovation.

ADRRN Partnership Event Overview

The AGM2017 would comprise of below:

Day/Segment	Key Contents
Day 1 RIF Asia in Partnership with OCHA, HIF, ICVA, ICC-DRR	<ul style="list-style-type: none"> Highlight progress since the last RIF-Asia including partnership between HIF and ADRRN (if possible, with some concrete examples). Highlight specific innovation practices in the region Analyze key thematic gaps in tackling flood risks in the region, and discuss possible solutions Share and discuss various tools on innovation and how they can be put into practice
Day 2 Localization Dialogue in Partnership with OCHA, ICVA, HLA, CERAH	<ul style="list-style-type: none"> Planned together with ICVA (ICVA members can also come together) Highlighting real progress since the WHS/Grand Bargain (moving beyond dialogue to action) Drawing on specific examples of progress from relevant research and reports Highlighting the diversity of existing local humanitarian action in context Partnership session Sharing of work and lessons from each member around key focus within Strategy 2020 Election process for Executive Committee New Exco meeting
Day 3 AGM with Partners	



西は英国、東は日本と、幅広い参加者にも恵まれ、総会時に行われた選挙で無事再選させて頂き、今後3年間理事兼事務局長として、引き続きADRRNの更なる飛躍に寄与して参ります。CWS Japanは現地の団体とのパートナーシップを大事に、一番迅速で効率的かつ効果的な支援方法を常に模索する事をモットーとしていますので、アジア20か国からなるADRRNのようなネットワークは非常に重要です。協働の幅を更に広げながら、災害に強い、安心・安全な社会づくりに向けて今後も邁進していきます。

(文：事務局長 小美野 剛)

アフガニスタンコミュニティ防災力 向上事業評価・アドボカシー会議

昨年1月から開始されたナンガハル州・ラグマン州コミュニティ防災力向上事業がこの12月で無事1年次の活動を終了することができました。そこで、12/22-24の間、アフガニスタンから11名、日本側から4名の関係者がニューデリーに集まり、評価・アドボカシー会議とハザードマップ製作の技術補完研修を開催しました。今回の会議のハイライトは、その参加者の多様性にありました。これまで2回にわたる技術研修参加者に加え、地方政府の公務員、国家災害庁官僚、カブール大学教員、女性国会議員、女性ジャーナリストなど、社会的影響力を持つ様々な関係者の参加が得られました。この会議の開催目的として、これらの参加者に本事業の成果や目指すところを共有することで、防災力向上の必要性を理解してもらうことができ、それによって、彼らがそれぞれの立場からアフガニスタン国内で政策提言を行ってもらうことがねらいでした。

女性ジャーナリスト協会のSafi女史(写真中央)は、この会議で学んだ防災政策の必要性や帰還難民再定住地区の災害リスクについて、他の女性ジャーナリストと情報共有し、記事を書いて発信して下さるそうです。また、国会議員のSaima女史(写真右)は、防災に関する新たな法案策定に向けて国会や国家災害庁に働きかけることを約束してくれました。

(文：プログラムオフィサー 牧 由希子)

